

標 題： Consumption of Olive Oil and Specific Food Groups in Relation to Breast Cancer Risk in Greece
ギリシャにおけるオリーブ油および特定食品群の摂取と乳癌リスクとの関連

著 者： A. Trichopoulou, et al. (ギリシャ 公衆衛生大学、
兼任：米国 ハーバード大学 公衆衛生学部)

掲 載 誌： J. Natl. Cancer Inst. 87: 110-116 (1995)

要 旨：

背 景： 他種類の油脂摂取と対照的に、オリーブ油の摂取は化学物質誘発性の乳癌発生を高めないと動物研究で示唆されるが、ヒトのデータは少ない。さらに女性乳癌の原因として主な栄養素とは異なる食品群の役割に関する証拠は、結論に到達していない。

目 的： 乳癌のリスクに対するオリーブ油、マーガリンおよび様々な範囲の食品の影響を評価して定量するために、この解析を実施した。

方 法： 乳癌のある女性 820 人と対照女性 1548 人で実施した総合的な半定量食事頻度アンケートからのデータを用いて、オリーブ油、マーガリンおよび一連の食品群の 5 段階摂取量について一次トレンドのオッズ比(OR)および 統計値を計算した。無条件ロジスティック回帰モデルで生殖危険因子、エネルギー摂取の影響および相互交絡の影響の補正を実施した。

結 果： 野菜摂取および果物摂取は別々に、5 段階の上昇当りそれぞれ 12%と 8%の有意な乳癌リスクの低下と関連したが、他の食品群では有意な関連はないと明らかになった。

オリーブ油摂取の増加は有意な乳癌リスク低下(OR=0.75 [95%信頼区間=0.57-0.98]、1 日 2 回以上 対 1 日 1 回)と関連したのに対して、マーガリン摂取の増加は有意なリスク上昇と関連した(OR=1.05 [95%信頼区間=1.00-1.10]、1 月に 4 回増加)。オリーブ油の関連は閉経後女性に集中したが、関連のある相互作用項は統計的に有意でないので、野菜、果物、マーガリンの摂取と閉経状況との相互作用はないと示唆された。

結 論： 今回を含めた殆どの研究で主な多量栄養素は乳癌リスクと有意な関連を示さなかったけれども、野菜および果物は有意な強い逆の関連をする。

また、オリーブ油摂取は乳癌リスクを低下させるが、マーガリン摂取はその疾患のリスクを上昇させるとみえるとの証拠がある。
